

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072900481		
法人名	特定非営利活動法人やぶつかケアサービスセンター		
事業所名	グループホームからちご		
所在地	群馬県太田市大原町2172-6		
自己評価作成日	令和3年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のご入居者様に出来る限りの個別対応を！をモットーにその人らしさを大切にされたケアを実践しています。家庭的な環境のもと日常生活の支援及び心身の機能訓練を行い、ご入居者様が有する能力に応じ可能な限り自立して生活を営み、当ホームでの生活を継続出来る様支援しています。ホーム内は明るい雰囲気でご入居者様1人1人のその人らしさを大切に生活をいただいております。毎日の生活の中で「選択」と「決定」の機会を出来る限り取り入れたり、自立支援を兼ねた体操や散歩等を行いながら一人一人に寄り添うケアを実践しています。生き生きとご入居者様同士仲良く過ごしていただいております。より良いサービスを今後も追及していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍、感染しない・させない(ウイルスをもちこまない)を合い言葉に、事業所内の換気や清掃、感染対策に努めている。時間に縛られない自由な暮らしを目標とするなかで、自身が出来ることを促し、朝の体操から1日が始まり、利用者一人ひとりに合った方法(声かけやジェスチャー)で誘い、レクリエーションなどが行われている。認知症の程度に関係なく、すべての利用者に「今日、何をしたいか」話しかけ、一緒に考え、利用者の自由な暮らしを支えている。花壇に咲くひまわりなどの草花の水やり、雑草取りをしたり、事業所の周辺を散歩したり、小学校や幼稚園のほうへ散歩に出かけ子ども達と会ったりなど、日々の生活のなかで利用者が自由に出入りしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人とのふれあい」「自然とのふれあい」「地域とのふれあい」の理念のもと、その人らしく生活していただけるよう支援しています。職員が念頭におき支援出来る様に日々確認しています。	設立時の考えから3項目の理念を掲げ、事業所内2ヶ所に理念を掲示しているが、理念を掘り下げ職員相互の共通理解を図る機会が少ない。	「理念」の考え方、具体的な援助内容、方法を職員間で共通理解する機会を持ち、さらに実践に活かせることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時等地域の人達と挨拶を交わしたり、話をしています。またご近所の方から農作物の差し入れをいただく事もあります。今後は防災訓練へのご協力をいただける様声をかけていく予定です。こちらについては新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は自粛しております。	事業所周辺は、工場・畑の中に民家が点在する環境にあって、試行錯誤しながら地域にとけこむ努力、地域とのつきあいをすすめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から介護や入居の相談を受ける事もあります。入居については空きがあればご案内し、介護の相談については不安・負担の軽減につながるようアドバイスしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、地域の方・近隣住民・市職員の方等に参加していただき、様々な意見交換やアドバイスをいただきながらサービスの向上につなげられるよう努めています。こちらについては新型コロナウイルス感染症の影響及び太田市からの要請にて開催を自粛しております。	コロナ禍のため会議中止の通知と事業報告(書面)を、2ヶ月毎にメンバーへ郵送している。運営推進会議の構成メンバーに家族、区長、職員がないことから、家族や地域の意見、地域の情報が入りにくい状況にある。	運営推進会議の意見を反映させるためにも目的を十分理解した上で、会議参加者の構成の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市の方に参加していただき、直接様子を見ていただいています。また不明な事等あればすぐに連絡相談する等積極的にコミュニケーションをとり、あたたかいご支援をいただいています。	外部評価の実施や事故報告等の分からないことは、電話や市担当課へ直接出向き質問しており、市の担当者や顔がわかるつきあいが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間でのカンファレンスや研修、身体拘束廃止委員会を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	年2回(4月・1月)、「身体拘束について」管理者が講師となり勉強会を実施している。言葉の拘束が気になる場合は、その都度注意し、職員相互で考える時間を設けている。玄関から職員が見守るなか、頻回に利用者が出入りしており、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて虐待や高齢者虐待防止法についての学びの機会を設けながら理解を深め、虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて権利擁護について学ぶ機会を設けています。また身寄りの無い方のご利用相談も増加している為、相談者に成年後見人制度の利用を薦める等活用しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にはご来所いただき、直接お会いした上で口頭及び書面にて十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはコミュニケーションをとりながら随時意見や要望を聞く様心掛けています。ご家族様には来所時やケアプラン作成時の要望伺いの際電話連絡し、状況報告と併せて要望を伺っています。	コロナ禍のため家族と直接会える機会が少なくなっているが、電話をした時に意見を聞いている。運営に関する意見の聴取には至っていないが、体操をしてほしいなど個人的な意見(要望)を聞き、対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から管理者とスタッフでコミュニケーションを取りながら意見を聞いています。	職員の意見や提案を、管理者が聞く機会は特別に設けていないが、業務のなかで意見を聞き、物品(掃除機等)購入であったり実現につなげるなど、気軽に話せるなかで取り入れる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の増額等を通して、頑張りが成果につながる様整備しています。また、精神的なやりがいも感じられるよう、ご家族様や外部からのお褒めの言葉を全員で共有しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に県や市の研修に参加してもらう様努めています。またホーム内研修を実施し、適切なケアの実践につなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県並びに市町村の開催する研修へ積極的に参加し交流を持つ事で、サービス向上を目指しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や関係者様からご本人様の過去を出来る限り詳細にお伺いし、詳細にアセスメントして支援計画に結び付けています。また不安にならない環境作りやご本人様・ご家族様の意向を全職員で確認し、お気持ちを汲み取り、安心を確保する為の関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談時から時間の許す限りコミュニケーションを取り、ご家族様が困っている事や不安な事、要望等を共に考えながら安心を確保する関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の心身状態を把握し、今何が出来るか、何が出来ているか、何をしたいかを確認しながら機能の維持に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様との共同生活の場である事を常に念頭に置きながら皆様に来る事は行っていただいています。またその際には必ず謝意を伝えています。他にも共に行える作業については一緒に行っていただき、信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の体調や状況を必要に応じて報告しており、共にご利用者様を支えていく体制を取っています。また体調不良・緊急時には積極的に連絡を取り一緒に通院等ご対応いただける様配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の面会や連絡があった時には、ご家族様に報告確認した上で行っていきます。現在新型コロナウイルス感染症の影響により面会についてはお控えいただいております。	コロナ禍で、家族以外の面会は禁止しており、これまでの関わりを継続することが困難になっている。馴染みの理美容などの関わりも難しく、訪問理美容を利用して、新たな関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士と一緒に出来るレクリエーションを職員が輪の中に入り孤立の無い様に努めています。また毎日の食事やお茶の時間にはスタッフも共に多くの会話をしたり、気の合う利用者同士が自然に話せる機会を作る様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族様からの相談があれば、出来る限りの情報提供等の支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や生活の様子を観察し、思いや意向の確認に努めています。毎日したい事があるかとご本人様の意志を確認する習慣をつける様にしています。	利用者全員で朝の軽い体操を実施しており、心身ともに活性化したところで、「今日、何をしたいのか」話しかけ、ジャスジャーやボディタッチなども行いながら反応をみており、反応がない場合には視覚から訴えて希望を出せるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前はご家族様や担当ケアマネジャー様からの情報把握に努めており、またご入居後はご本人様、ご家族様とのコミュニケーションからも把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・表情・言動・食事・水分摂取量等で心身状態を把握しています。日々の過ごし方については意思を確認しながらご利用者様のペースで過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様からの要望を反映させながらホーム長を中心に毎月のモニタリングにて計画作成担当者、介護職員で共同して柔軟に介護計画を作成しています。	職員と管理者・ケアマネジャーで、モニタリングシートを活用して介護計画を作成している。職員からの情報を基に毎月1回、モニタリングを実施、援助内容を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってのケアの実践・結果・状態の変化等を記録し情報の共有をしながら計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に沿ってのケアの実践・結果・状態の変化等を記録し情報の共有をしながら計画の見直しに努めています。またご本人様・ご家族様の状況に応じて必要な支援(送迎等)が発生した場合には柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員や民生委員等に参加いただき、地域の情報交換を行いながら、ご利用者が地域で心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを営む事が出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の要望を大切にしています。当施設の協力医の他、ご利用者が希望されるかかりつけ医への診察や往診も受け付けております。体調不良や特変時には職員が付き添い対応しています。	入居時に、これまでのかかりつけ医の受診継続を確認している。協力医の往診は月に2回あり、協力医の診療科以外の受診が必要な場合は、協力医の紹介をうけ、職員が受診支援を行っている。入居の際には健康診断を行い、利用者すべての健康管理と、適切な医療が提供できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおりませんが、協力医やかかりつけの医師に日常生活の中で情報や気づきを伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は担当医・看護師又はご家族様の希望を得ながら情報交換し、早期退院に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りの支援をしていきます。ご家族様・ご本人様の意向をよく確認し、ホームでご家族様との協力で出来る事は努めて行います。医療対応が大きく、ご希望の対応がホームでは困難な場合には医療系の施設を紹介し、託す事がある事も入居時に説明し、ご理解を得ています。	入居時に、本人・家族に重度化や終末期ケアについて事業所で対応できる範囲を、説明している。実例として、利用者・家族の希望を叶え看取りが行われている。協力医の助言で、早い段階から訪問看護師をチームに加え、職員と共に支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化し、全従業員に周知しています。事故報告書・ヒヤリハットも記録し共有し、常に事故防止に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ご利用者様と共に消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練を行っています。またそのうち1回は夜間を想定した訓練を行っています。	年2回、消防署職員指導のもとで、初期消火と避難誘導を実施している。うち1回は夜間の想定であるが、職員の緊急時連絡網の作成や、新人職員の避難訓練がされていない。災害時の備蓄品として、3日分の水・食料が保管されている。	災害時に避難できるよう、職員連絡網の作成、新人職員の消火訓練実施、地域の方々との協力関係が築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳とプライバシー保護についてはホーム長が中心となり、指導を徹底しています。特に言葉遣いについては徹底して確認指導しています。制止する言動やプライバシーにかかわる言葉遣いにはその中でも注意しています。	管理者は、利用者に対する言葉遣い・行動で、職員自身がこんな言い方や態度をされたら嫌だなと感じることはしてはならないと、指導している。また、利用者本人が希望しないかぎり、居室のドアは閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望に応じて、散歩ややりたい事を自己決定出来る様にしております。またティータイムの飲み物を選んでもらう等選択と決定の機会を設け、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のご利用者様を主体者としてとらえ、個々の希望や生活を重視しております。ホームの都合ではなく、1人1人の出来るかぎり思いに沿った支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事、また気温にあわせご利用者様の好みを取り入れた支援をしております。また身だしなみが乱れている時には羞恥心に配慮し、他のご利用者様に聞こえない様にお伝えしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や季節を感じられる食事やおやつに参加出来る様努めております。またご利用者様の好みや苦手な物を踏まえたメニューを工夫したり、一人一人の能力にあわせた盛り付け方法にし、出来る限りご自身で食べられる様取り組んでいます。	写真つき献立表と食材が給食業者から届き、作り方のレシピに従って調理している。その日の献立により、利用者が白菜をちぎったり、いんげんのすじを取ったり、食事後のテーブル拭きをしたりしている。利用者の咀嚼状態に応じ、刻み食やペースト状食で、自力摂取に向け支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みにあわせられる範囲で提供出来る物をお出ししています。水分摂取しにくい方や食事が困難な方については主治医管理の元、栄養剤やゼリー飲料等を用意し、積極的に摂取していただける様努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状態にあわせた働きかけを行っています。毎食後ご自身で出来る方は声かけ・見守りをし、十分に出来ない方については職員が支援し、清潔になる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の様子を記録しながら習慣や傾向を把握し、また排泄チェック表を活用する事で尿意の無いご利用者様を一定のタイミングで誘導し、トイレでの自力排泄を行える様支援しています。	お茶や食事の前後の他、排泄チェック記録と利用者の動作をみて、失敗がないように早めに声かけをして、トイレ誘導している。ポータブルトイレを居室に設置している利用者へも、昼間は歩行訓練を兼ねてトイレに行くことで、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動、食物(乳製品やオリーブオイル等)等を用いてご利用者様個々に応じた予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1人1人お湯を入れ替え、ゆっくりと入浴出来る様工夫しております。季節を感じられる入浴や、石鹸やシャンプーについては個々人で揃えて楽しんでいただける様努めております。	基本は午前中の入浴で、個浴でゆっくりと過ごせるようにしている。利用者の入浴トレーには、自分好みの石けん、シャンプーをそろえている。また、季節によって、湯に浮かぶ柚子やしょうぶの葉の香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や活動で身体を動かし、夜間安眠していただける様努めております。また個々の生活リズムにあわせ、眠気が強い時には午睡をしていただいたりゆっくり休息が取れる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書や連絡ノートを活用し、服薬の情報についてすぐに職員が確認出来る様にしています。服薬は個々の状態にあわせて介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様各々の作業の分担を決めて、気分転換と活気が出来る様に支援を行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には近所へ散歩をしています。また皆様で中庭の草むしりをしたり野菜を植えたり、花を観たりと季節を感じられる時間を作っています。外出については現在コロナウイルス感染症の影響により自粛しております。	事業所の庭に、ひまわり等の草花を植えて、気温を見ながら、草取りや草花に水やりをしている。コロナ禍であり、できる範囲で、事業所周辺の散歩や、近くの小学校まで散歩へ出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在当ホームでは金銭管理をするご利用者様はおりません。ご本人様・ご家族様に説明した上で、買い物等の際にはスタッフが付き添い、一度こちらで立替させていただく様取り組んでおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方にご本人様自ら電話をしたり、年賀状や暑中見舞等のやり取りが出来る様支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりも良く見晴らしも良いので、皆様自然とリビングに集まってこられます。空調(特に冬)は床暖房等の設備が整っている為「いつも過ごしやすい」と好評をいただいています。	朝、職員によって掃除がされ、清潔を心がけている。まれに、利用者が手伝うこともあり、参加してもらっている。常に換気に気をつけて、心地よく過ごせるよう室温調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてご利用者様同士で日向ぼっこや雑談、または読書等思い思いに皆様過ごされています。またリビングに隣接した和室で休まれたり外を眺める方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れている物や大事にしている物、またはご本人様が希望した物を居室に取り入れ、今までの生活環境と変わらない状況を継続出来る様にしております。	持込みは自由であるが、居室に設置されているものとしてベッド、チェスト、衣装ケースがある。家族と本人の希望で、ベッドではなく床にマットを敷き布団で寝ている利用者もいるなど、好きな環境で過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の身体状況にあわせて手すりの設置や備品の交換を行っています。またトイレや洗面所についてはわかりやすくする様配慮しております。		